F-1　9/1 10:00　PMによる21世紀の効果的なプロジェクト遂行と遂行技術の伝承の方策

日揮プロジェクトサービス株式会社
顧問　高橋　良之

【セミナーの狙い】高齢化が進む企業は将来を生き抜くため、世代交代を積極的に行っている。その一方、多くの企業で必ずしも遂行技術の伝承が上手くいっていない。各実務担当者の努力にもかかわらず、先輩からの適切な指導、経験、遂行技術ノウハウが十分に活用されず、思わぬミス、リサイクル作業の増加で、プロジェクトの採算性を悪くしている。21世紀に入り景気回復の兆候が出始め、受注が好調になりつつあるが、それに反比例してエンジニア不足が顕著になっている。そのため実務担当者は想像を越せる厳しい環境（過酷残業）で仕事を行っている。

【セミナーコンテンツ】その現状を改善・打破すべく、PMに基くエンジニアリング遂行基盤（EP:エンジニアリング・プラットフォーム）を構築する必要性がある。その構築の仕組み・方策のヒントを説明する。EPの基盤となる遂行技術（ノウハウ含む）を先輩から後輩へ技術伝承していく難しさと伝承の仕組み・方策の例を提示し、今後のPM技術向上と育成のヒントとしてほしい。

【受講をお奨めする方】プロジェクト・マネジャー（リーダーを含む）及び育成する立場の方

【講師略歴】昭和39年日揮入社、国内・海外の石油精製、石油化学、化学、食品加工、家電、自動車関連プラントのプロジェクト・エンジニア、エンジニアリング・マネジャー、プロジェクト・マネジャー、事業部長として職務を担当する。
主なる経験分野は石油化学、一般化学、食品製造・加工、自動車関連、FA分野等
・PM遂行技術向上のためのコンサルタント役務（現在）
・PM講座(ENAA）の講師(現在）、PM講座(PMAJ）の講師(現在）。

F-2　9/1 14:00　SIプロジェクトの実践的リスクマネジメントガイド
＜受託案件型SIプロジェクトの成功に向けたリスクマネジメントのアプローチ＞

IT-SIG RM-WG
土出　克夫（富士通）、中谷　英雄（テクノサージ）　SIG

【セミナーの狙い】昨今、受託案件型のSIプロジェクトではQ.C.Dの目標達成が非常に難しくなっている。お客様からの益々多様化・複雑化・高度化するシステム化案件に加えて、短納期・低価格実現の要求が背景にあるが、プロジェクト成功のためには商談段階からの継続的なリスクマネジメント（RM）が非常に重要といえる。本セションではRMの捉え方とアプローチ、眼のつけどころについて、SIGが作成した「SIプロジェクトの実践的リスクマネジメントガイドブック」をもとに紹介する。

【セミナーコンテンツ】①SIプロジェクトにおけるリスクマネジメントの捉え方とアプローチ　②「SIプロジェクトの実践的リスクマネジメントガイドブック」の概要　③同ガイドブックの活用方法　④SIプロジェクトのフェーズ別リスクマネジメントの押さえどころ・眼のつけどころ

【受講をお奨めする方】①リスクマネジメントに悩んでおられるプロジェクトマネジャー　②SIビジネスを推進・監理されているマネジャー　③PMOの立場でプロジェクトをチェック・サポートされているスタッフ

【講師略歴】土出克夫：富士通株式会社　人材開発部　プロフェッショナル研修センター　シニア・レクチャラー。1969年からフィールドSE、共通技術管理(スタッフ)、ラインマネジャーを経て、1994年からシステム部門における ISO9001QMS の導入・推進（品質管理責任者）、プロジェクト診断、PM現場指導、PM研修教材開発、同講師等に従事。
中谷英雄：株式会社テクノサージビジネスコンサルティング事業部シニアビジネスコンサルタント。日本ユニシスにて、エアライン座席予約システムなどの開発経験、中央三井信託銀行にて、証券分野でのPMとして指揮・監督を行う。　現在、企業向けにPMコンサルティングに従事。

G-1　9/1 10:00　「ITPM教科書」を読む：旧JPMF関西支部　2005年度自主勉強会活動
＜IT系のメンバーは、エンジ系のメンバーはどう読んだか、共通のシナリオを囲んで1年間＞

旧JPMF自主勉強会PM（PEデスク・コンサルタント）　大久保　和彦
旧JPMF自主勉強会メンバー（関西系電機メーカー・ソフトウエアエンジニア）橋本　欽司

【セミナーの狙い】IT系PMとENG・建設系PMの接点を探る。

【セミナーコンテンツ】旧JPMF関西支部では2004年度から会員の任意参加による自主勉強活動を立上げた。PMに関する共通の関心事項をテーマとして、毎月1回、第3金曜日の夕刻、参加者によるプレゼンテーションと討議を実施してきた。IT関連系と建設・エンジ系がそれぞれ半数を占め、毎回10-15名が参加した。
2005年度はPMの新しい動向に着目し、IT系、エンジ・建設系双方が参画出来るテーマということで、Kathy Schwalbe著「ITPM教科書」を取り上げてみた。
同書の記述がPMBOK® Guide 2000 に沿ったものであること、プロジェクト・ツールの使用例が随所に取り込まれていることが参加者に共通の場を提供した。この勉強会自体をバーチャルな「ITPM教科書プロジェクト」に設定し、参加者をチームメンバーとみなして教科書のPMプロセスを忠実にフォローしてみた。

【受講をお奨めする方】IT系を知らないENG・建設系プロジェクト従事者、ENG・建設系を知らないIT系プロジェクト従事者

【講師略歴】大久保和彦：PE & PMP® ／1960年～東北大学工学部卒，国内素材メーカーで製造技術担当。1975年～南米、中近東にてプロジェクトのPMおよび経営指導。2001年～PEデスク主宰、技術者の国際化支援、PM教育・コンサルテーション
橋本欽司：PMP®／1984年～大阪大学大学院基礎工学研究科前期課程を修了。1984年～国内電機メーカーの研究開発部門でソフトウェア関連の開発業務を担当。1994年～製造事業所にて商品組込ソフト開発・PMを担当

G-2　9/1 14:00　チームと個人を幸せに導くプロジェクトマネジメント
＜顧客や組織を動かすプロジェクトマネジャーの心得と行動＞

有限会社ウィンアンドウィン
代表取締役　近藤　哲生　ワークショップ

【セミナーの狙い】プロジェクトが失敗すると、チームや組織が崩壊し、あるいは失敗街道を進む中で、個人の犠牲者が出ることが多い。プロジェクトを見事に成功させるには、プロジェクト（組織）のビジョンをスポンサーや顧客を含む関係者全員で共有し、モチベーションを高め合うことが最も重要である。そのためには、全員が納得する計画作りや、全員で自主自律的に行う「高速回転のプロジェクト」運営が必要になる。しかし、これらの活動を実現するためには、顧客をも巻き込んだ全体最適のプロジェクト運営の考え方が不可欠である。全体最適のプロジェクト運営のための事例を示し、ヒントや気づきを提供する。また、副題事項について、グループ討議し結果を発表し講評する。

【セミナーコンテンツ】①個人と組織の関係性　②スポンサーシップの必要性　③顧客とのコラボレーション

【受講をお奨めする方】これからリーダやマネジャーになる方、なかなか成功することが出来ないPM経験者、失敗の多い組織風土を変革しようと考えている方々。

【講師略歴】1946年愛媛県生まれ。日立製作所に入社。情報・通信システム、艦船搭載システムなどの開発に従事。多くの苦戦するプロジェクトを立て直す中から、独自の「プロジェクトを成功させる方法論」を見いだす。特に「自律的な学習するチームづくり」を促進するPMの確立に取り組んでいる。コンサルタント会社ウィンアンドウィンを2002年設立。
著書「実用企業小説　プロジェクトマネジメント」、「はじめてのプロジェクトマネジメント」共に、日本経済新聞社　発行